



対馬丸通信

財団法人
対馬丸記念会

対馬丸記念館と遺族やサポーターを結ぶ、ふれあいのコミュニケーション紙

記念館オープン1周年を迎えて

財団法人対馬丸記念会 会長 高良政勝

多くの皆様方の力に支えられ対馬丸記念館が開館1周年を迎えることができ感無量のものがあります。平成14年5月会長就任以来、日夜私の頭を去来するのは対馬丸記念会および記念館を如何に維持するかでありました。そしてとにもかくにも記念館オープン1周年を迎えることができました。

那覇市より当記念館建設の際、市有地の提供を賜り、今年度は固定資産税の全額減免を承認していただき翁長雄志那覇市長にはあらためて御礼申し上げる次第であります。稲嶺恵一沖縄県知事におかれましては、5月6日の対馬丸記念館ご来館の折り、稲嶺知事ご自身の疎開の貴重な体験談を賜りまた、県職員の対馬丸協会への入会を支援していただきまして感謝の気持ちでいっぱいです。多くの皆様方の物心両面からの支えがあったればこそ、対馬丸記念館は存続できるものと感謝にたえません。

対馬丸記念館にとってこの1年は実に充実した1年でした。昨年10月13日沖縄書道界の重鎮茅原南龍先生揮毫による「対馬丸記念館」の表札を掲示、記念館が一段と風格を増しました。11月6日「琉米歴史研究会」と情報・資料収集の協力提携し、早速年末には対馬丸生存者上原清氏と琉米歴史研究会理事長 喜舎場静夫氏が訪米し、ボウフィン号乗組員ジョセフ・M・ノックス氏との会見の他、ボウフィン号乗組員の写真、文書、書籍など資料多数を持ち帰ってきました。12月2日南部地区歯科医師会協力の下、歯科健康相談開催、好評を博しました。

昨年開館当時101枚だった遺影もその後皆様のご協力で写真がどんどん集まり12月12日、本年3月30日、8月17日遺影の追加展示を行い現在218枚(242名)になっております。企画展も昨年開館と同時に開催した「平和の約束」メッセージ展を皮切りに本年3月1日より「石田壽長崎原爆写真展」、6月23日より「対馬丸調査と深海の神秘展」を開催しました。これらの企画展は戦争の悲惨さ、残酷さ、無意味さを伝えるとともに、記念館の建設理念である子供たちに夢を与えるような企画展になったのではないかと思います。

今年になり要人の来館も相次ぎました。4月8日橋本龍太郎元総理大臣(現衆議院議員)、5月6日稲嶺恵一沖縄県知事、5月21日小池百合子沖縄北方担当大臣、6月23日小泉純一郎首相、小池百合子大臣、そのほか内閣府や厚生労働省、沖縄総合事務局などから多くの来館者があり、皆様記念館内の展示物や、遺品、遺影、映像を熱心にご覧ください、深く感動されたご様子でした。

記念館内、学校、各種団体からの依頼による語り部活動もこの1年で42回を数えました。

記念館維持は入館者を増やすこと、協力会員を増やすことが柱になります。今後とも記念館内部の充実、健全運営に力を注いでいきたいと思っております。遺族、協力会員皆様のお力添えよろしく願いいたします。

平成17年8月22日

橋本元総理
ご来館
平成17年4月8日(金)

衆議院議員橋本龍太郎先生は、沖縄で開催された米州開発銀行（IDB）年次総会に御出席の多忙な日程の中、対馬丸で犠牲になった御霊に思いを寄せていただき遺族・関係者一同、歓喜に湧き上がりました。橋本先生のご意思が小池大臣・小泉総理大臣の御来館に繋がり「忘れ去られることのない御霊」は慰められ安らいだことと思われます。



平成17年4月8日(金)対馬丸の御霊に参拝する橋本龍太郎先生



写真(左)は大城真順先生



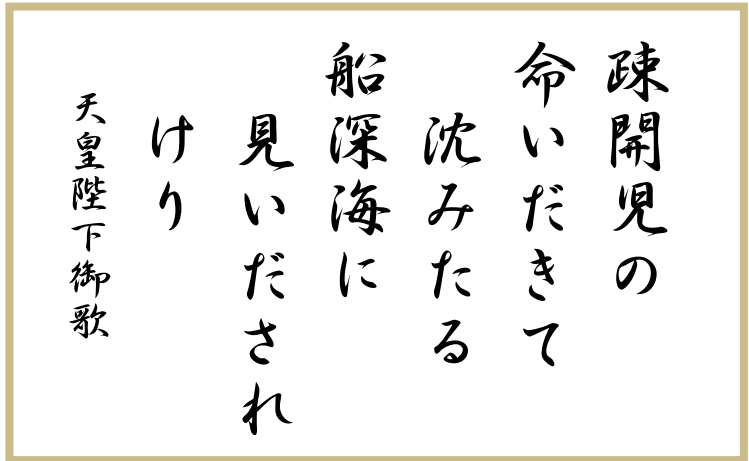
小桜の塔から徒歩で対馬丸記念館に向かう
橋本先生ご一行



遺族のお出迎えにやさしい微笑みをかえす橋本先生のお心遣いに感謝・感激。



平成17年4月8日(金)対馬丸記念館会議室にて



今上天皇(現在の天皇のこと)が同世代の犠牲者を悼み、お詠みあそばされました。

衆議院議員橋本龍太郎先生は小桜の塔の参拝後、対馬丸記念館を視察に訪れた際、天皇陛下が対馬丸の船体確認の報にふれられ「対馬丸見出さる」と題してお詠みになられた「歌碑」について遺族・関係者に対し大変貴重なお話をして下さいました。

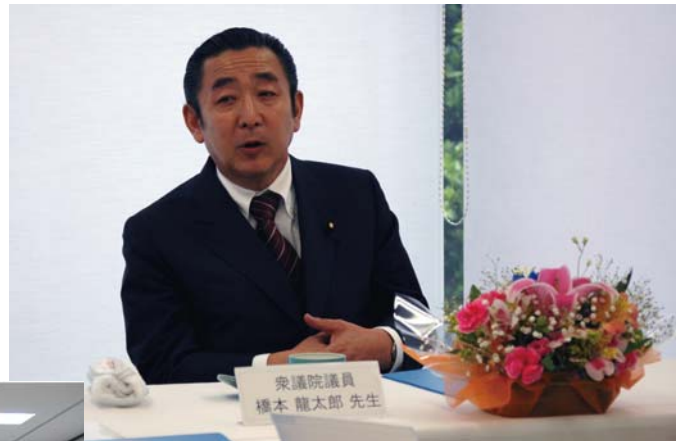
この歌碑は、花崗岩の自然石と黒御影石に刻まれた書家高木聖鶴氏の筆によるもので、この御詠を永く後世に伝えるために平成13年3月に横須賀にある海洋研究開発機構本部に建立されたものです。歌碑には次のような由来記が刻まれております。

昭和十九年八月二十二日、沖縄から本土へ疎開する七百九十七名の学童など千七百四十七名を乗せて航行中の「対馬丸」は、鹿児島県トカラ列島沖で米国潜水艦の攻撃を受けて沈没し、学童七百三十八名を含む千五百八名が船と運命を共にされました。

爾来約半世紀にわたり、その船体の搜索は、殉難者の御遺族及び関係者、そして、多くの国民の悲願でありました。

平成九年十二月、海洋科学技術センターは、政府の依頼を受け、深海調査研究船「かいいい」及び無人探査機「かいこう」による海域の音響調査を実施し、悪石島沖の水深八百七十米で船影を発見し、つづいて、支援母船「なつしま」及び無人探査機「ドルフィン3K」のテレビカメラによる目視調査により船体及び船名を確認しました。

畏も天皇陛下には、これを深く御心にお留めになり、同年同月、「対馬丸見出さる」と題した和歌を一首お詠みあそばされたのであります。……



平成17年6月23日(木) 沖縄県慰霊の日

小泉首相を小桜の塔、対馬丸記念館にお迎えしました

小池大臣が総理と共に小桜の塔にお越し頂いた際、高良会長に「約束通り総理をお連れしましたよ。」とのお言葉を賜りました。遺族にとって終世忘れることが出来ない瞬間となりました。



小泉純一郎内閣総理大臣は、糸満市の平和祈念公園で6月23日に開催された県主催の「沖縄全戦没者追悼式」に参列された後、那覇市の小桜の塔と対馬丸記念館を視察された。

同日は太平洋戦争末期の沖縄戦で旧日本軍の組織的戦争が終結したとされ、沖縄県民が犠牲となった二十万人以上を悼む「慰霊の日」と定められている。



小泉首相は、小桜の塔に参列した那覇市立天妃小学校の児童20名全員に握手をして下さいました。小泉首相の恩恵にふれた子ども達には生涯の思い出になったことでしょう。



生存者の上原清氏(対馬丸記念会評議員)の体験談を聞く小泉首相と小池百合子大臣
左は稲嶺沖縄県知事



(財)対馬丸記念会高良政勝会長から犠牲者の刻名板の説明を受ける小泉首相と小池百合子大臣



小池百合子

内閣府沖縄担当大臣
環境大臣

ご 視 察

平成17年5月21日(土)

小池大臣には、沖縄担当大臣として本県の振興発展のためご尽力いただき感謝にたえません。

大臣の遺族を思いやるお心は、遺族及び関係者一同、大変ありがたく受けとめまた末永く語り継がれることでしょう。

小池百合子大臣は、記念館視察の当初日程には無い、小桜の塔ご参拝を遺族の強い希望でご無理をお願いしたところ、快くご理解いただき、現役大臣として初めて、小桜の塔参拝をなされました。



写真(左)は沖縄総合事務局竹林局長



写真(左)は沖縄県牧野副知事



大城真順先生・高良会長・小池百合子内閣府沖縄担当大臣・上原妙前会長と遺族の皆様

トピックス

稲嶺恵一知事熱心に展示を ご覧になりました。

平成17年5月6日(金)稲嶺沖縄県知事は、対馬丸記念館を視察のためご来館されました。

一階の常設展示室にある生存者の体験モニターを見つめる知事



写真(上)「イカダは木の葉のように揺れていた。」
「生き延びてもなお続く苦しみ。」…との説明に聞き
入る稲嶺知事。

写真(下)対馬丸記念館二階会議室にて広報紙対馬丸通信に目を通す稲嶺知事。

要人の視察相次ぐ



平成17年6月6日(月) (財)大蔵財務協会 塚越剛男理事長



写真上、平成17年6月6日(月)内閣府 佐藤正紀(沖縄・北方担当)審議官が視察のため対馬丸記念館にご来館いただきました。高良会長が対馬丸で犠牲になられた九名のご家族の遺影について説明いたしました。

写真右、対馬丸犠牲者の遺影に想いを込め合掌する 千玄室[第十五代千宗室]氏



平成17年6月8日(水) 内閣府沖縄振興局 東良信局長

対馬丸記念館 第3回企画展

対馬丸調査と深海の神秘展

とき:6月23日(木)～8月31日(水) ところ:対馬丸記念館企画展示室

企画:海洋研究開発機構 国際海洋環境情報センター

企画展第3弾は開館一周年にあわせ 対馬丸発見の経緯を詳しく紹介

平成17年6月23日(木)から8月31日(水)の期間中、対馬丸沈没地点の探査報告という内容で第3回企画展が開催されました。主題は「対馬丸調査と深海の



テープカットを行う、左から上原清氏(生存者)加藤康宏海洋研究開発機構理事長
高良会長、上原妙前会長

加藤康宏理事長は、ご挨拶の中で対馬丸記念館とのつながりが深まったと述べられ特に、対馬丸調査は「当時の沖縄開発庁長官から科学技術庁長官へのご要請を受け、厚生省等の協力を得て実現できたものでありますが、当初は、現場海域に関する情報が少なく、また技術的な問題や天候が不安定な時期でもあったことから、誰もが調査は難航するものと考えておりました。しかし、生存者の皆様をはじめとする多くの方々か



対馬丸発見の調査記録を説明する田中 敏(海洋研究開発機構 経営企画室長)

神秘展」で共催は独立行政法人 海洋研究開発機構の支援のもと執り行われました。

6月23日沖縄県慰霊の日には、企画展開会式典に横須賀の独立行政法人 海洋研究開発機構や名護市にあります国際海洋環境情報センターの皆様や遺族・政府関係者をはじめ多くの方々のご出席なさいました。式典は、黙祷から始まり主催者挨拶を対馬丸記念会 高良政勝会長、共催者挨拶を独立行政法人海洋研究開発機構 加藤康宏理事長が行い、テープカットも無事終了いたしました。



天皇陛下の御歌を贈る加藤康宏理事長

ら情報の提供やご協力、また、天候にも恵まれ、ついに「対馬丸」という船名を確認することができました。これは何よりも、遺族の皆様をはじめとする関係者の方々のお気持ちと、遭難された方々の御霊に支えられたものであろうと思います。」といったありがたいお言葉をいただきました。また、ご挨拶の後、独立行政法人海洋研究開発機構 所蔵の天皇陛下の御歌が高良政勝会長へ寄贈されました。



熱心に調査パネルに見入る遺族の皆様

編集後記

皆様の力強いご支援をうけて、やっと開館一周年を迎えることができました。感謝、感謝の毎日です。この間、政府を始めたくさんの要人に記念館を見ていただきいろいろ御示唆いただきました。本当にありがとうございます。多くの皆様の善意で支えられた一年だったと思っています。次の一年は自らの力も蓄積し、次のステップへ進んでいきたいと思っています。